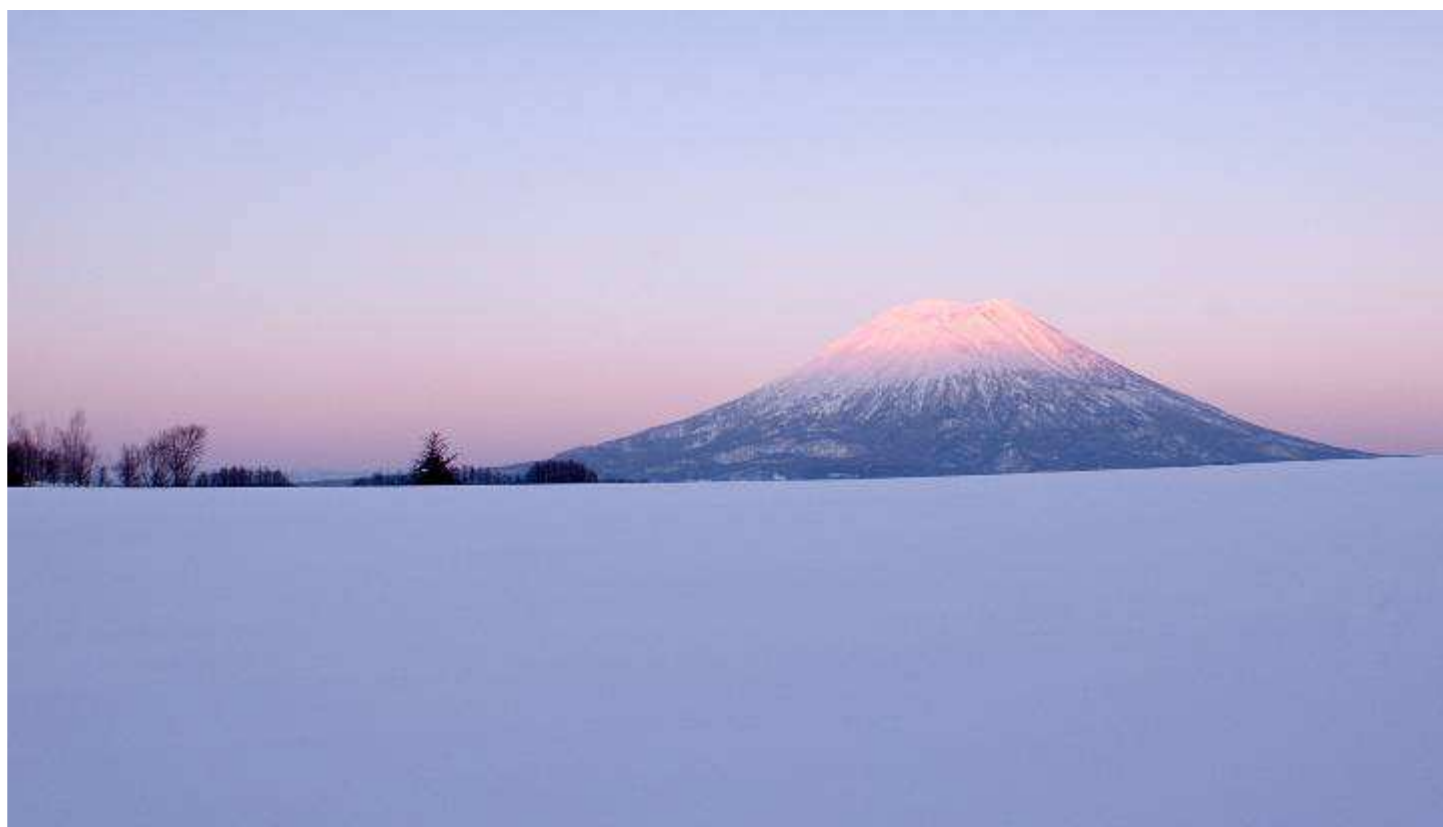




数字で見るニセコ

ニセコ町統計資料 2013年5月末版



目次

ニセコ町の概要		
ニセコ町民憲章、町の木・花・鳥、ニセコ町章	2	
ニセコ町の位置	3	
ニセコ町の気象概要		
平均気温の変化	3	
日照時間(月平均)の変化	4	
降雪量と最深積雪の変化	4	
ニセコ町の自然・土地		
自然公園	5	
主な山岳・河川	5	
森林面積	5	
地目別土地面積・総面積	6	
地目別面積比率	6	
ニセコ町の人口と産業構造		
年齢別男女人口	7	
国勢調査人口の推移	7	
年齢別人口の推移	8	
普通出生率の推移	8	
人口推移と推計	8	
外国人登録者数の推移	9	
産業別就業人口の推移	9	
産業別就業人口構成比率の推移	9	
産業別就業人口	10	
産業別就業人口比率	10	
ニセコ町の農業		
農家数の推移	11	
経営耕地規模別経営体数	11	
主な作物の作付面積・収穫量	12	
YES!clean認証件数の動向	13	
ニセコ町の観光		
観光客入り込み数の推移	13	
観光客入り込み状況	14	
外国人宿泊客の状況	15	
アジア国別宿泊の状況	15	
ニセコ町の社会基盤		
水道施設・給水状況	16	
公共下水道の普及状況	16	
ニセコ町の環境		
二酸化炭素排出量	17	
一人当たりの二酸化炭素排出量	17	
ごみ処理	18	
ニセコ町教育		
学校状況等	18	
ニセコ町の教育・文化施設	19	
ニセコ町の財政		20
ニセコ町のあゆみ ～ニセコ年表～		21

ニセコ町の概要

「ニセコ町民憲章」（1973年11月3日制定）

私たちはニセコ町の自然を愛し、恵まれた大地で勤労と生産に励む日々を感謝しながら希望に満ちた生活につとめ、より豊かな未来をつくるために願いを込めてこの憲章を定めます。

- 一、自然を愛し住みよい環境をつくりましょう。
- 一、きまりを守り明るい社会をつくりましょう。
- 一、力をあわせ豊かな生産にはげみましょう。
- 一、健康で働き楽しい家庭をつくりましょう。
- 一、希望に生きるたくましい町民となりましょう。

「ニセコ町まちづくり基本条例」（平成12年12月27日制定）

この条例は、自治基本条例として全国で先駆けて制定され、ニセコのまちづくりを進める上で町民共通のルールであり、「まちの憲法」でもあります。

「情報共有」と「住民参加」を2本柱に、日本国憲法や地方自治法などの法の精神に基づき、町民がまちづくりの主役(主体)として行動するための権利を保障するものです。

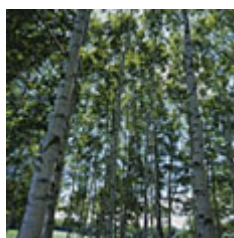
【前文】

ニセコ町は、先人の労苦の中で歴史を刻み、町を愛する多くの人々の英知に支えられて今日を迎えています。わたしたち町民は、この美しく厳しい自然と相互扶助の中で培われた風土や人の心を守り、育て、「住むことが誇りに思えるまち」をめざします。

まちづくりは、町民一人ひとりが自ら考え、行動することによる「自治」が基本です。わたしたち町民は「情報共有」の実践により、この自治が実現できることを学びました。

わたしたち町民は、ここにニセコ町のまちづくりの理念を明らかにし、日々の暮らしの中でよろこびを実感できるまちをつくるため、この条例を制定します。

【町の木】



しらかば

(1979. 4. 4制定)

【町の花】



ラベンダー

(1991. 10. 1制定)

【町の鳥】



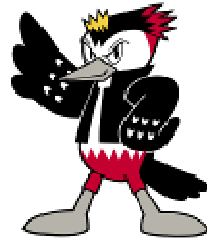
アカゲラ

(1991. 10. 1制定)

【ニセコ町イメージキャラクター】



『ニッキー(左)』



『アニッキー』

(アカゲラ)

「ニセコ町章」（1968年5月15日制定）

町名の「ニセコ」を図案化したもので、「ニ」は雲を、「セ」は山を、「コ」は流れを意味し、それぞれ青雲の志、不動の姿、不斷の努力を表す。総体的に丸形は平和と団結を、山頂と山裾は飛躍と発展を、内側の白い部分は清らかな心と雪を象徴する。



ニセコ町の位置

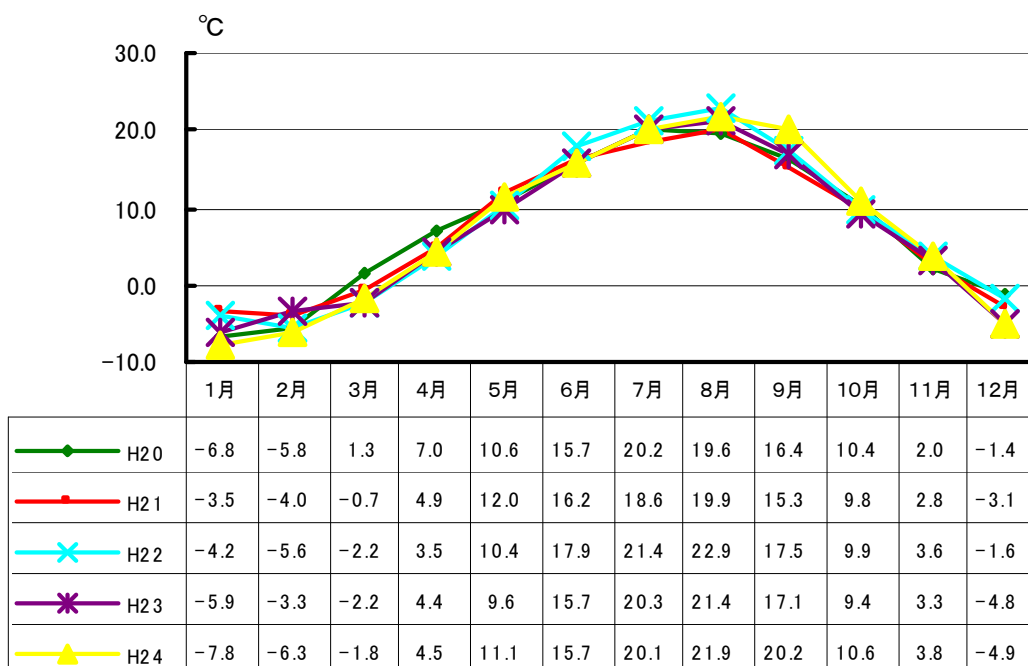


ニセコ町は、東経140°48′、北緯42°52′、道央の西部、後志管内のほぼ中央に位置し、山岳に囲まれた波状傾斜の多い丘陵盆地を形成している。このため内陸的気候を呈し、平均気温はおおよそ8.0℃である。また、冬期の最深積雪は200cmにも達することがある。



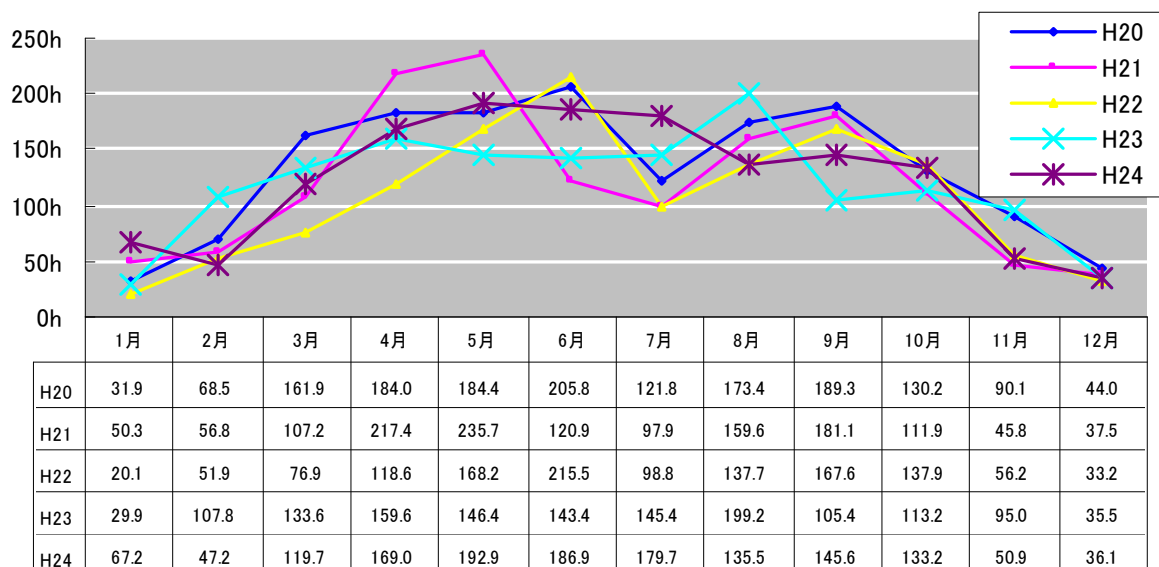
ニセコ町の気象概況

平均気温の変化（倶知安測候所観測値）

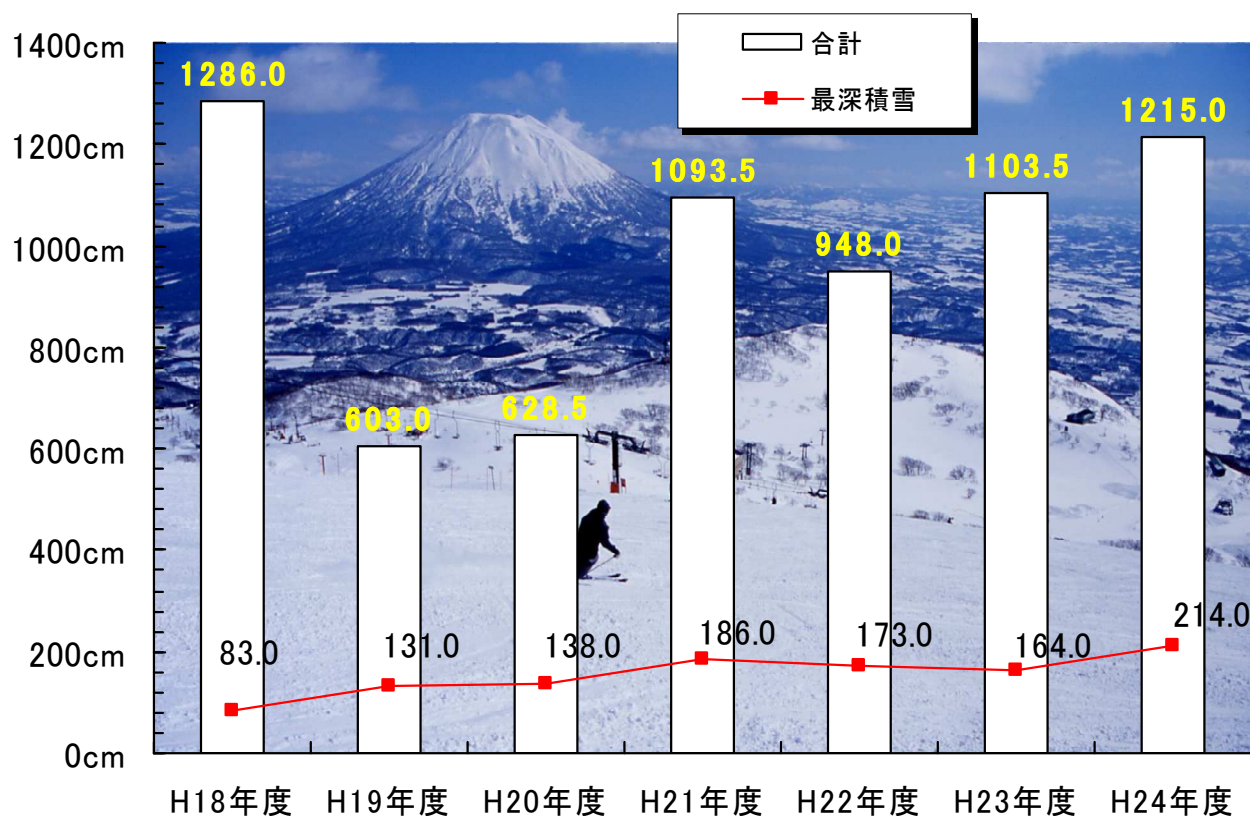


年間平均気温	
H20	7.4
H21	7.4
H22	7.8
H23	7.1
H24	7.3

日照時間(月平均)の変化 (倶知安測候所観測値)



降雪量と最深積雪の変化 (羊蹄山ろく消防組合ニセコ支署調べ)



ニセコ町の自然・土地

自然公園（後志総合振興局環境生活課調べ）

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽海岸国定公園を合わせると、ニセコ町全体の約13.5%の面積を占めており、貴重な自然に恵まれた土地であることがわかる。

公 園	町内に占める面積	総面積
支 笏 洞 爺 国 立 公 園	1,374ha	99,302ha
ニ セ コ 積 丹 小 樽 海 岸 国 定 公 園	1,280ha	19,009ha

主な山岳・河川（国土地理院地形図）

ニセコアンヌプリ、昆布岳、そして「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山に三方を囲まれている。そのほぼ中央を、北海道で6番目の流路延長を持つ尻別川が、真狩川や昆布川などの支流を集め、東西に流れている。

山 岳 名	標高（m）	河 川 名	延長（km）
羊 蹄 山	1,898	尻 別 川	125.7
ニ セ コ ア ン ヌ プ リ	1,308	真 狩 川	27.4
昆 布 岳	1,045	昆 布 川	24.4

森林面積（2011年北海道林業統計）

天然林が全体の約77%を占めている。

区 分	面積(ha)
人 工 林	2,834
天 然 林	10,073
無 立 木 地	66
そ の 他	273
樹 林 地 総 数	13,246

区 分	面積(ha)
町 有 林	572
国 有 林	0
道 有 林	6,015
そ の 他 民 有 林	6,659
樹 林 地 総 数	13,246

ニセコ野営場

ニセコアンヌプリとイワオヌプリに挟まれた、五色温泉そばにあり、登山や沼めぐりの拠点としても最適です。春から初夏に野山を彩るお花畑や、紅葉の名所からも近く、隣接する五色温泉の露天風呂を楽しむこともできます。

- ◇所在地 ニセコ五色温泉付近
- ◇開設期間 6月上旬～10月中旬
- ◇収容能力 100名
- ◇料金(1泊) 大人 300円
小中学生 100円
小学生未満 無料

地目別土地面積・総面積（平成24年度固定資産概要調書）

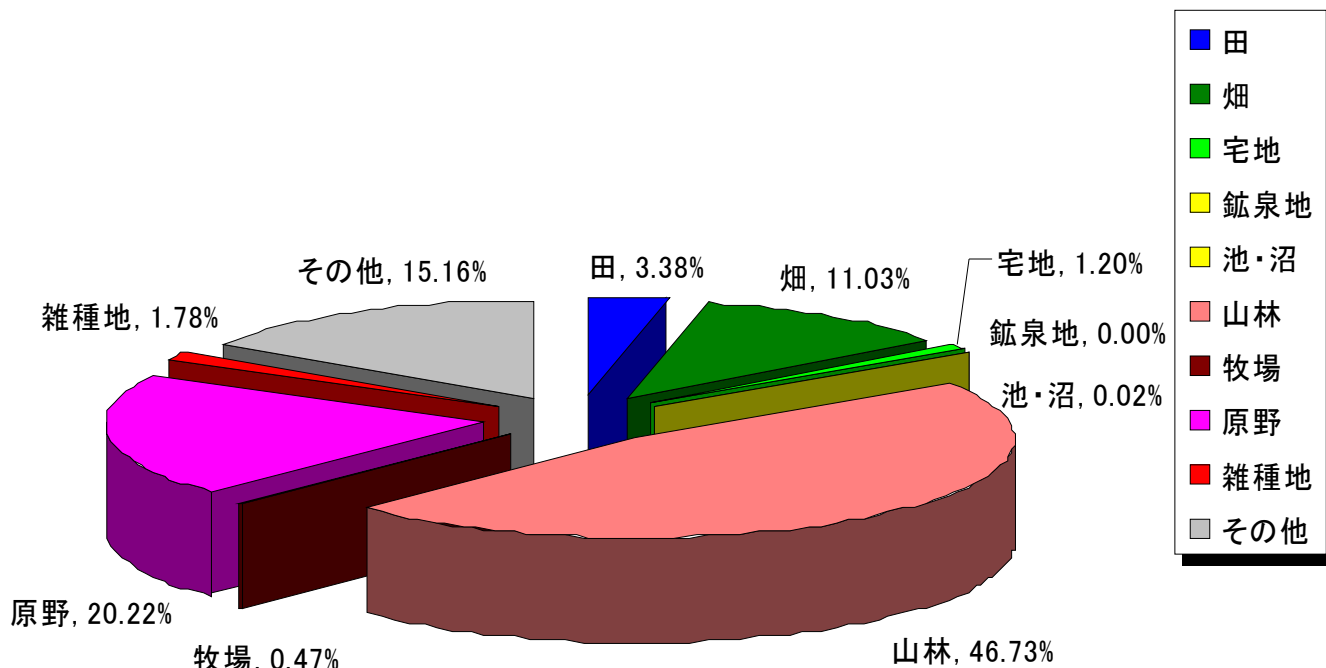
山林が全体の約半分を占め、次いで原野、畑の順である。

北海道全体と比較すると、特に山林が少なく、原野、その他が多い。その他には、墓地、境内、運河用地、水道用地、用悪水路、ため池、堤、井溝、保安林、公衆用道路、公園が含まれる。総面積は、北海道内179市町村の平均の半分弱の広さとなっている。



地 目	面積（㎡）	割合
田	6,654,686	3.38%
畑	21,750,065	11.03%
宅 地	2,363,062	1.20%
鉱 泉 地	550	0.00%
池 ・ 沼	47,763	0.02%
山 林	92,127,254	46.73%
牧 場	923,017	0.47%
原 野	39,855,393	20.22%
雑 種 地	3,515,547	1.78%
そ の 他	29,892,663	15.16%
総 面 積	197,130,000	100.00%
北海道の市町村の平均	451,120,000	—

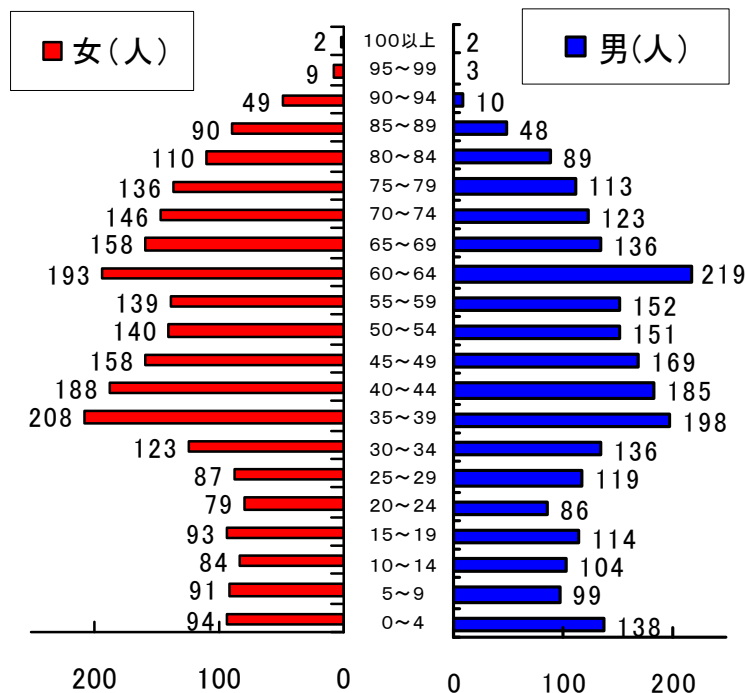
地目別面積比率（平成24年度固定資産概要調書）



ニセコ町の人口と産業構造

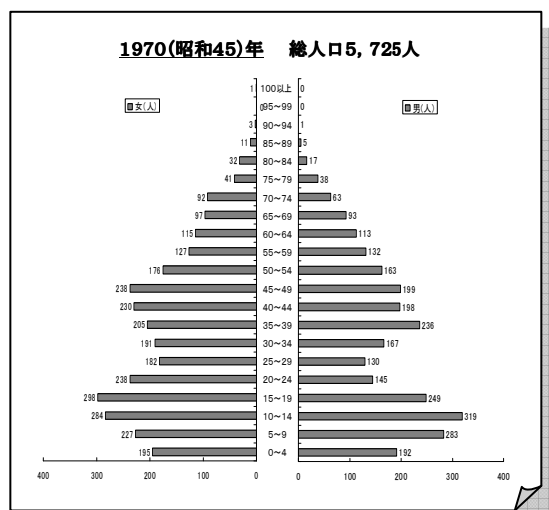
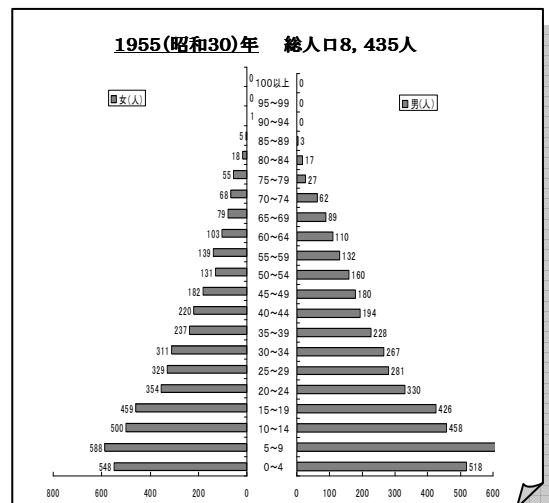
年齢別男女別人口（平成25年3月31日現在住民基本台帳）

男2,394人、女2,377人、総人口4,771人で昨年同時期からやや減少。65歳以上の高齢者比率は25.6%（H23 24.6%）であり、今後も高齢化が進むと思われる。国勢調査によると、2010年10月1日現在の全国、北海道の高齢者比率は、それぞれ23.0%、24.7%である。



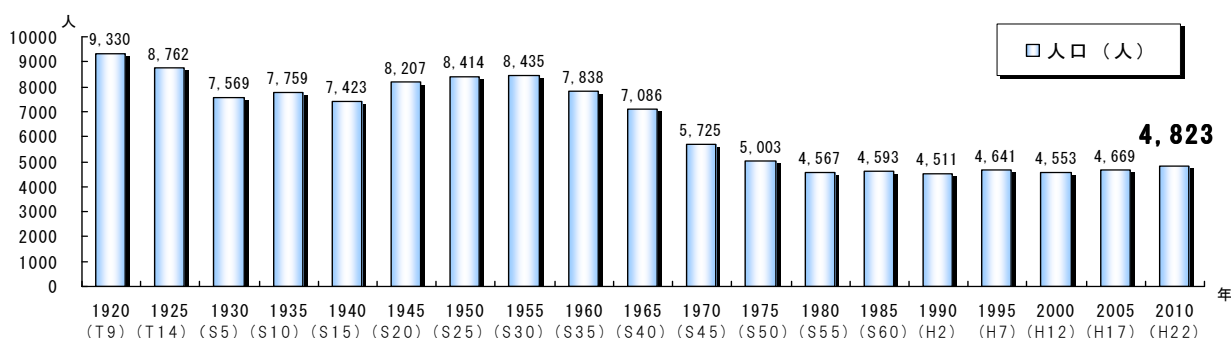
※右のグラフは、戦後最も人口が多かった頃（1955年）と、人口減少が最も激しかった頃（1970年）の人口ピラミッドである。

3つのグラフを年代ごとに見ると、「ピラミッド型」から「釣り鐘型」に形が変わっていく様子がわかる。すなわち、少子高齢化社会への変化が目で見ることができる。

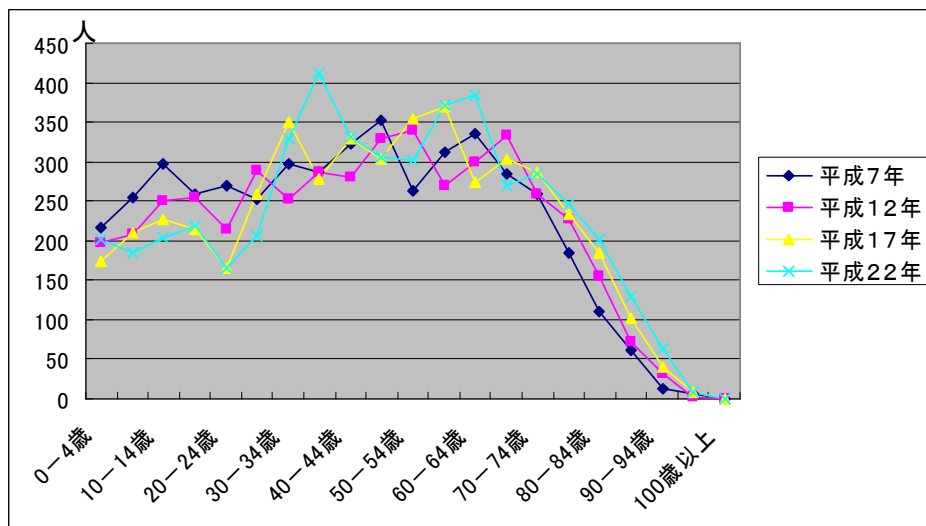


国勢調査人口の推移

1920年より1940年までは減少したが、戦後一時増加する。しかし、全国的に過疎化減少が顕著化し始めた1960年頃から再び減少を始め、1980年には1920年の半分以上まで落ち込んだ。以降、横ばい状態が続いていたが、2005－2010年の5年間は、多くの市町村が人口減少する中、全道3番目の人口増加率（3.3%）となった。

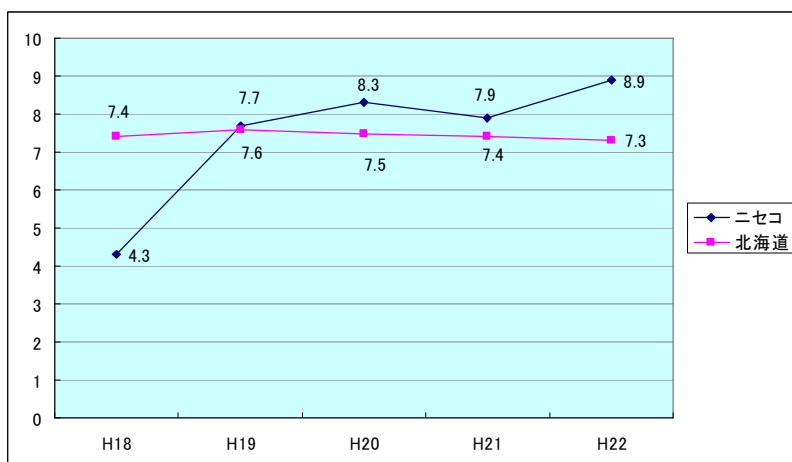


年齢別人口の推移（国勢調査）



ニセコ町の5歳ごとの年齢別人口推計を見てみると、平成7年度から15年間で少子高齢化が進んでいることがわかる。しかし、平成17年から平成22年度では、30～60代の人口が増加しており、比較的若い子育て世代や、リタイア後の移住者が増えたことにより、人口も増加傾向にある。また、近年外国人の居住者が増えていることも、人口増加の要因とも言える。

普通出生率の推移（人口動態統計）



普通出生率は、人口千人に対して子どもが何人生まれたかという数値を表したものである。平成19年度に急激に増加し、その後ほぼ横ばいの数値を保っている。平成22年度にこの5年間で最高の数値8.9に達した。

北海道との数値と比較しても、ニセコ町の出生率が高く、子どもの数が増えていることがわかる。

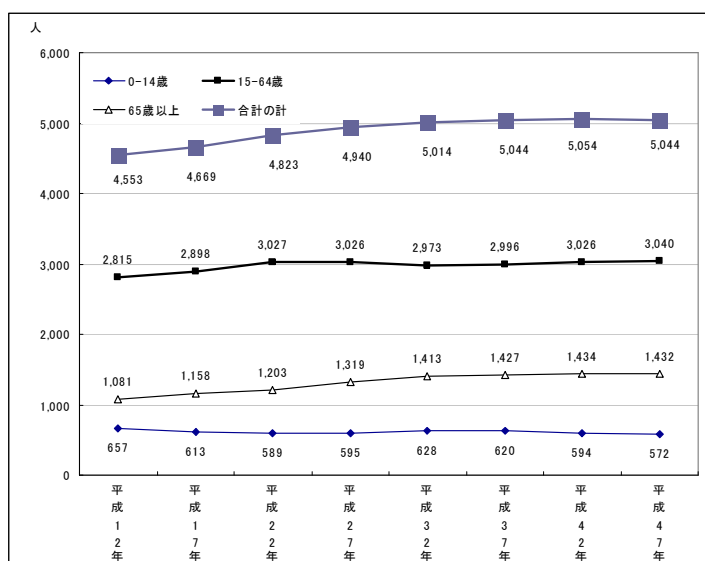
人口推移と推計（国勢調査）

平成22年度の国勢調査結果が公表されたのを受けて、コーホート法によりニセコ町の将来の人口推計を行った。なお、国勢調査の集計は、在住外国人も含んでいる。

平成12年の4,553人以降増加傾向を続け、平成37年には、5,044人(対平成22年比+225人、+4.7%)となる。

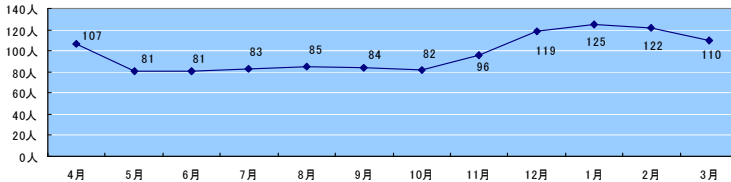
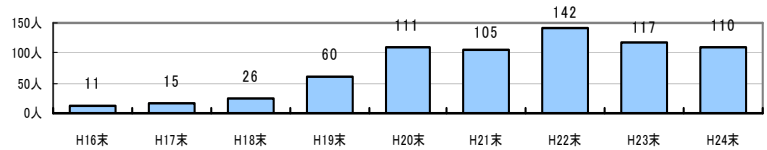
※コーホート法とは

コーホート(＝同年または同期間に出生した集団)ごとの時間変化を軸に人口の変化を捉えたもの



外国人住民基本台帳登録者数の推移（各年度末住民基本台帳）

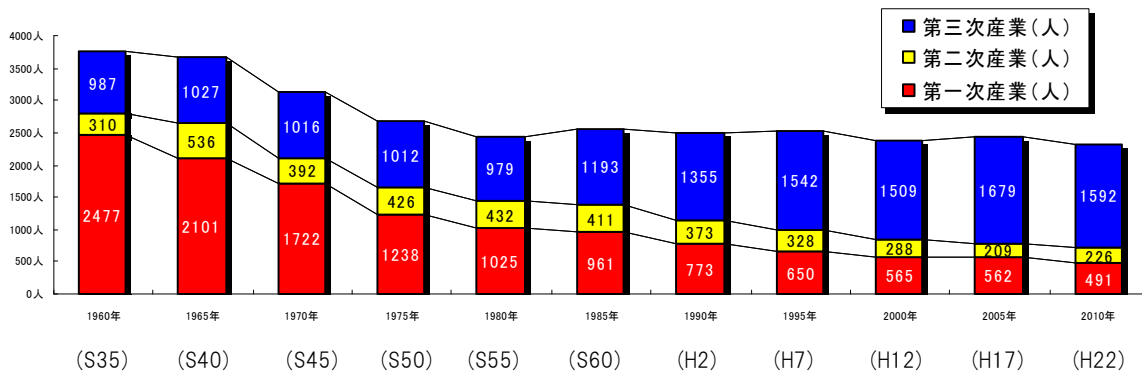
ここ10年での外国人登録者数は約10倍に達し、国際的にもニセコの注目度が高まっていることが窺える。



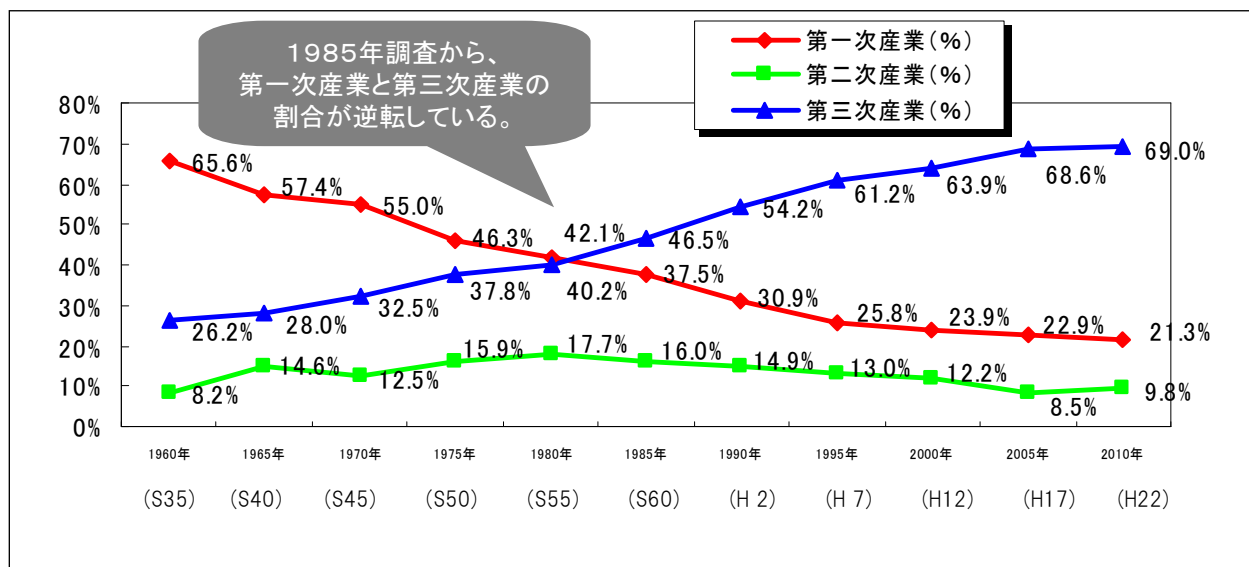
左記グラフは、平成24年度の月ごとの外国人登録者数。夏季よりも冬季のほうが、登録者数が多い傾向にあることから、冬季間の魅力が特に高く評価されているともいえる。

産業別就業人口の推移（国勢調査）

農業を中心とする第一次産業は年々減少している。それに対して1980年まで横ばいであった第三次産業が1985年から増え始め、1990年には全就業人口の約70%を占めるようになった。

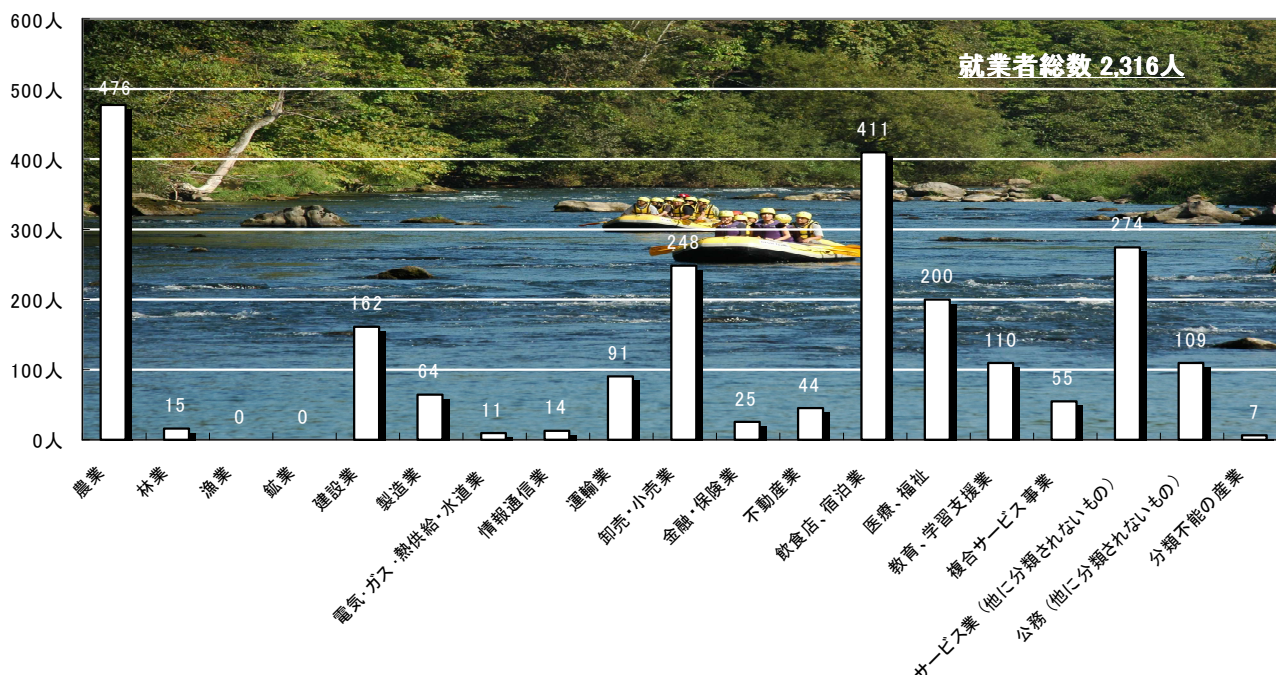


産業別就業人口構成比率の推移（国勢調査）



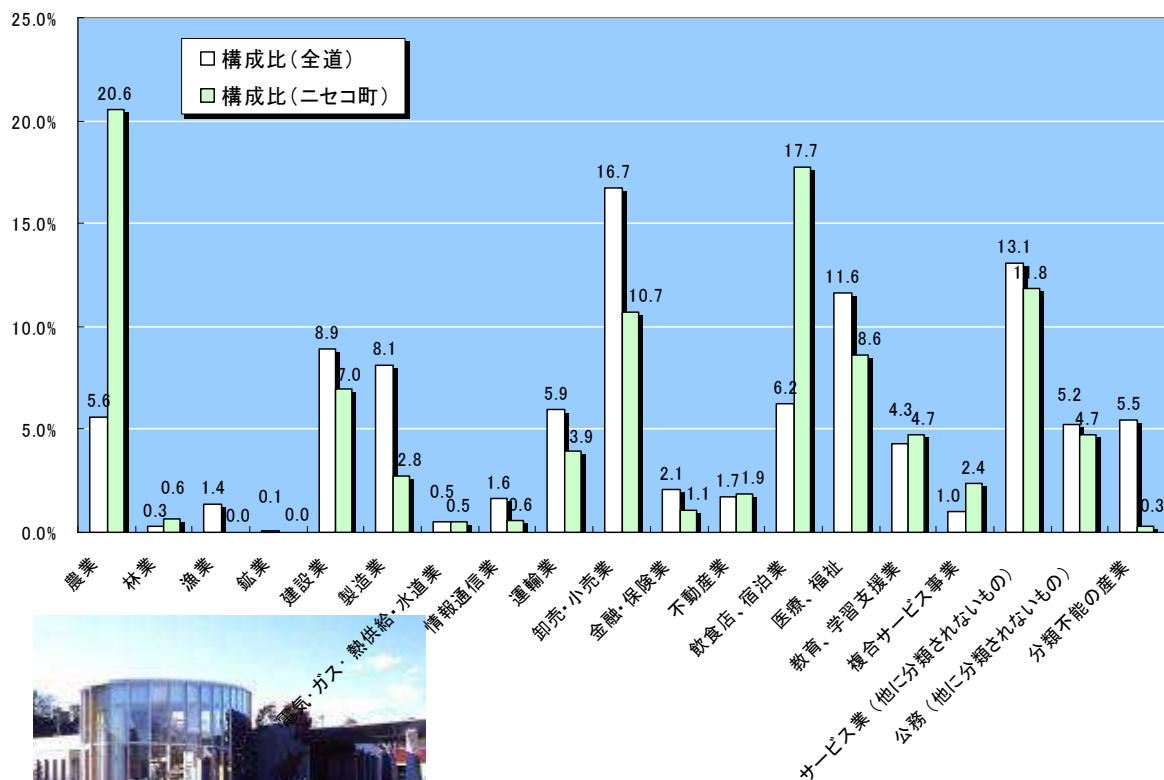
産業別就業人口（2010年国勢調査）

就業人口では、農業・サービス業が多くを占めている。



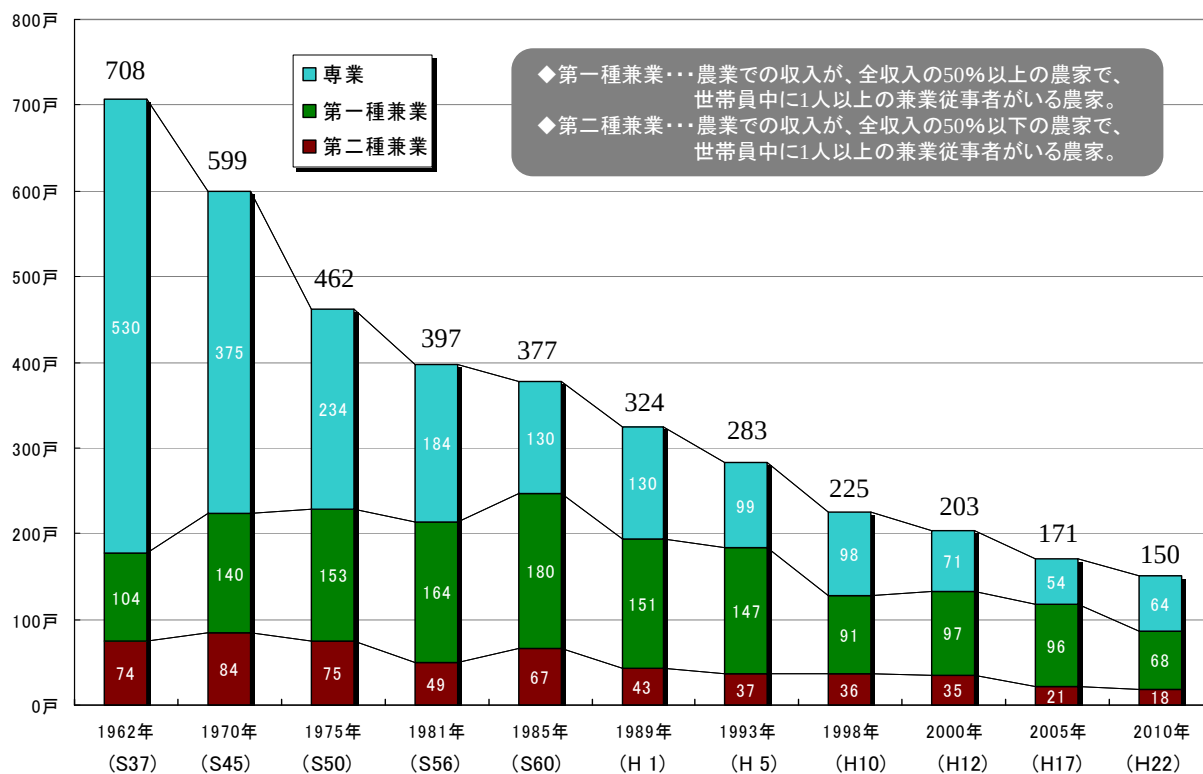
産業別就業人口比率の全道比較（2010年国勢調査）

北海道全体の数値と比較すると、ニセコ町はサービス業と農業の比率が高く、製造業と商業の比率が低いことがわかる。ニセコ町の実業人口面からみた主要産業は農業と、観光を中心としたサービス業の二つである。

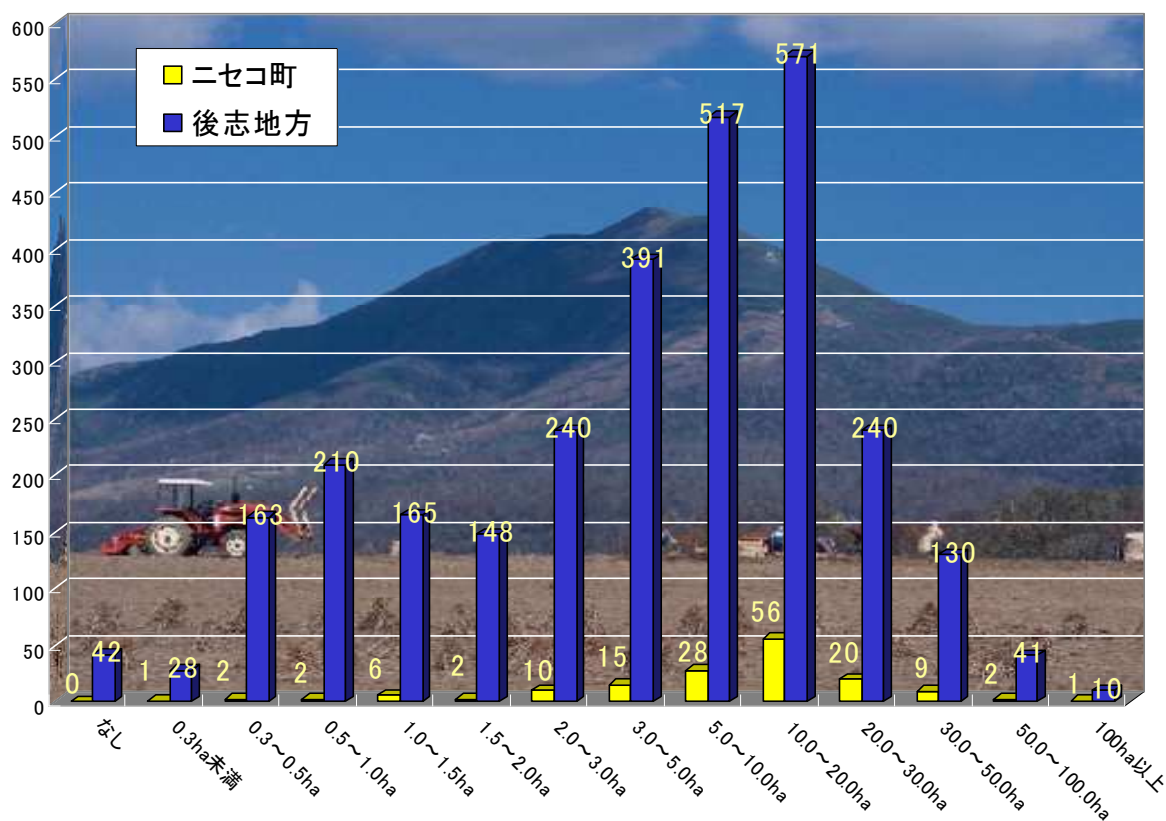


ニセコ町の農業

農家数の推移 (2010年世界農林業センサス)

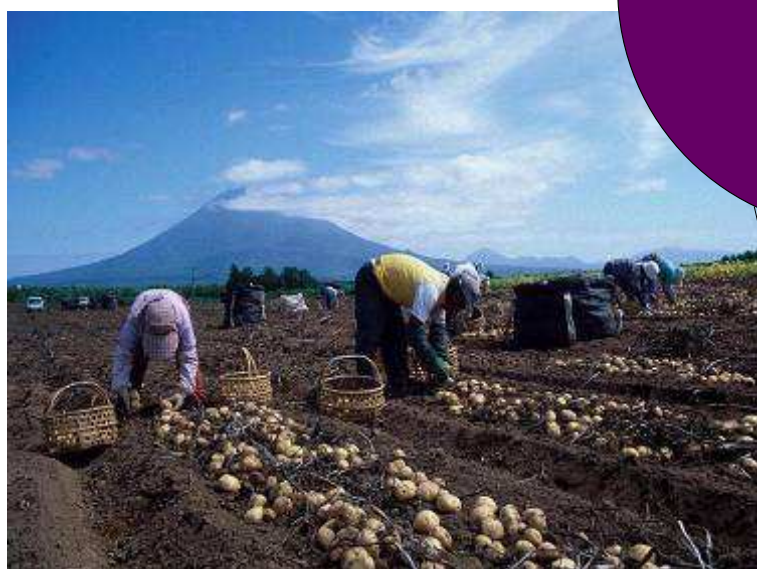
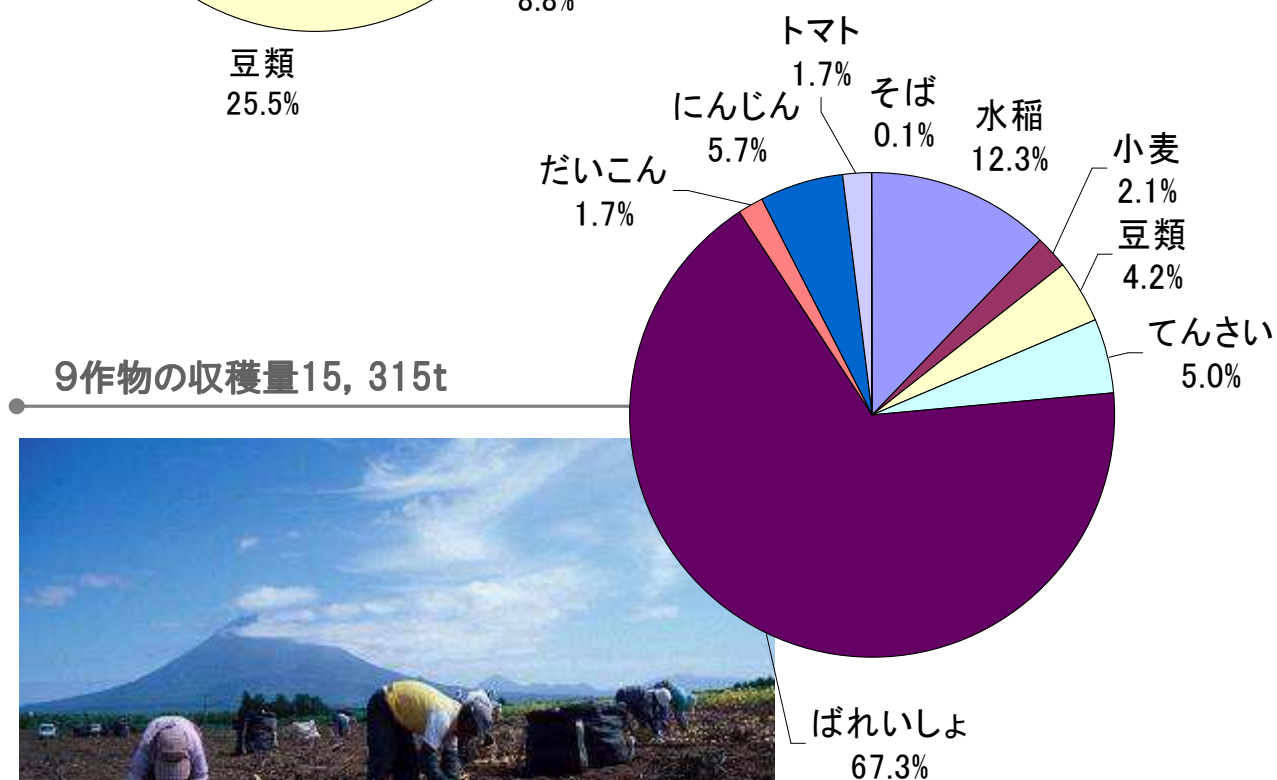
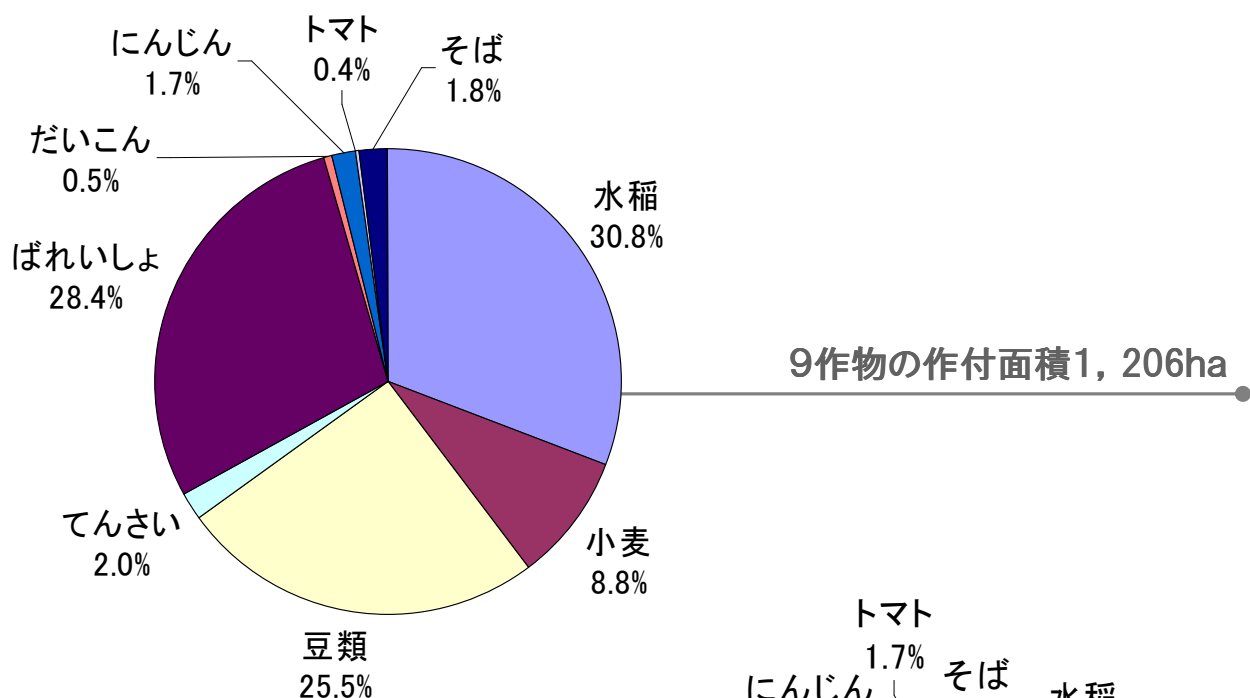


経営耕地規模別経営体数 (2010年世界農林業センサス)



主な作物の作付け面積、収穫量(統計図書記載作物のみ)

(北海道農林水産統計年報【平成23年～24年】)



YES!clean認証件数の動向

YES! clean(北のグリーン農産物表示)制度は、平成12年に創設された、農薬や化学肥料の使用を削減と健康な土づくりの取組みを行い、道内の農業関係機関で開発・改良された「グリーン農業技術」により生産された農産物を認証する制度である。

ニセコ町内では、3集団11作物で、この制度による環境に配慮したクリーンな農産物生産を進めている。

【ニセコ町】

○JAようてい水稻生産組合ニセコ支部

米 31戸(H24:293ha作付)

○ニセコclean倶楽部

馬鈴薯 5戸

○ニセコビュープラザ直売会ニセコグリーン農業研究会

メロン、アスパラ、カボチャ、トマト、ミニトマト、馬鈴薯

キャベツ、大根(露地春撒き)、大根(露地夏撒き)



ニセコビュープラザ直売会 YES!clean常設コーナー

ニセコ町の観光

観光客入り込み数の推移 (ニセコ町商工観光課調べ)

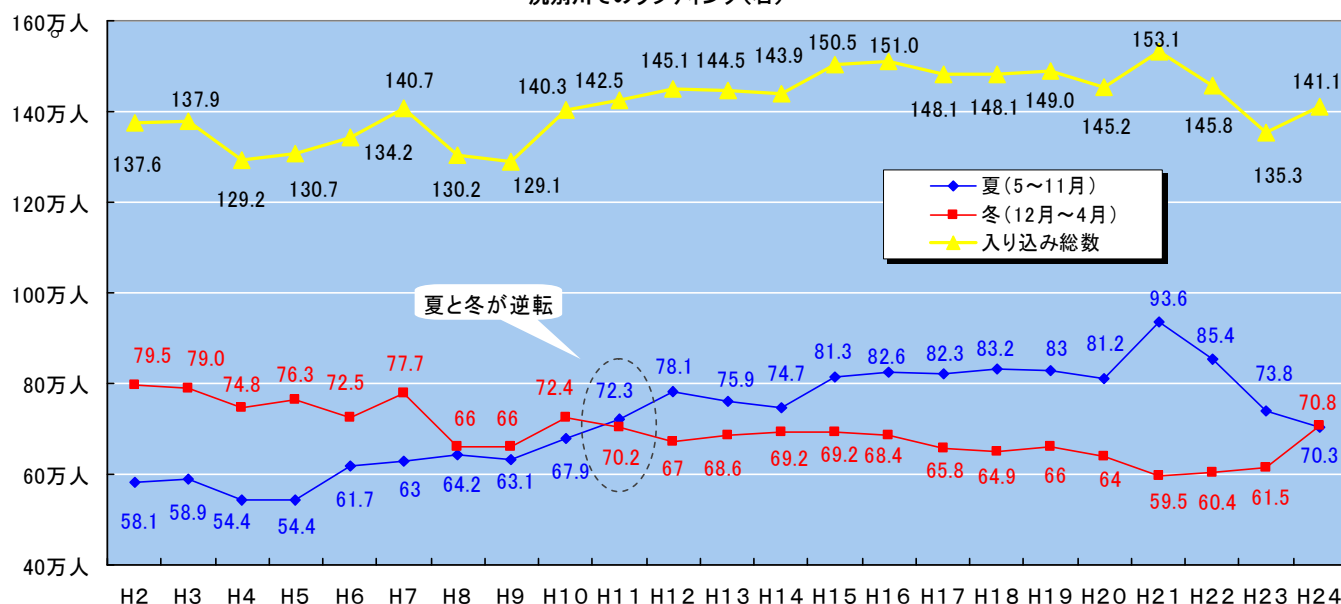
ニセコ町の観光客入り込み総数は、平成10年からほぼ横ばいか微増傾向にある。平成23年は震災の影響により減少したが、現在は回復傾向にある。

季節で見ると、平成11年から夏と冬の入り込み数が逆転しており、かつてのスキー場中心だったニセコの観光に変化が見られた。しかし、平成24年は円安などの影響もあり、海外からの冬の入り込み数が増加している。



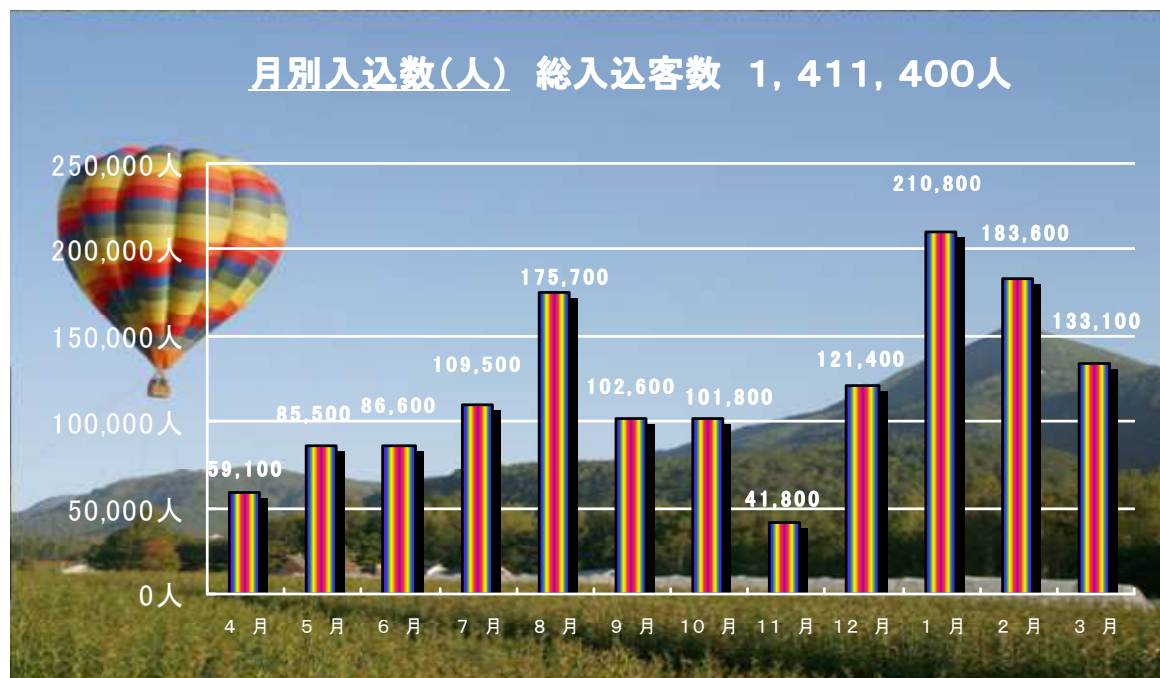
アンヌプリスキー場(左)

尻別川でのラフティング(右)



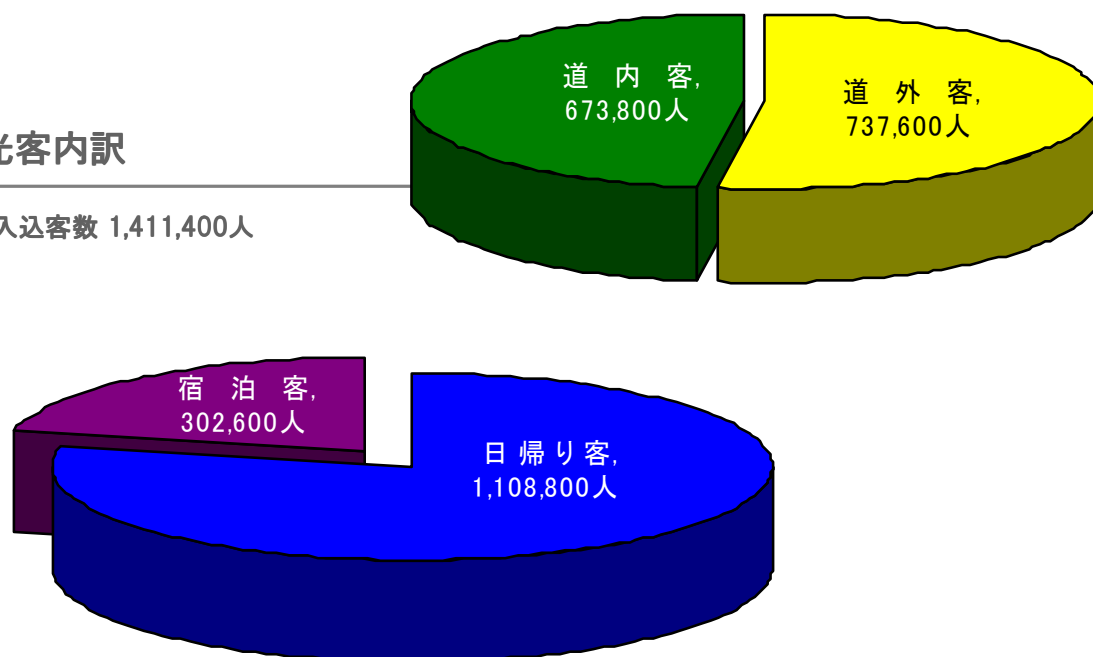
観光客入り込み状況（平成24年度末ニセコ町商工観光課調べ）

ニセコでの観光客入り込み数の特徴は、1月と8月にピークを持つ二峰型である。スキーシーズンの冬と、様々なアウトドアスポーツを楽しむことができる夏にニセコの魅力を感じる人が多いものと考えられる。



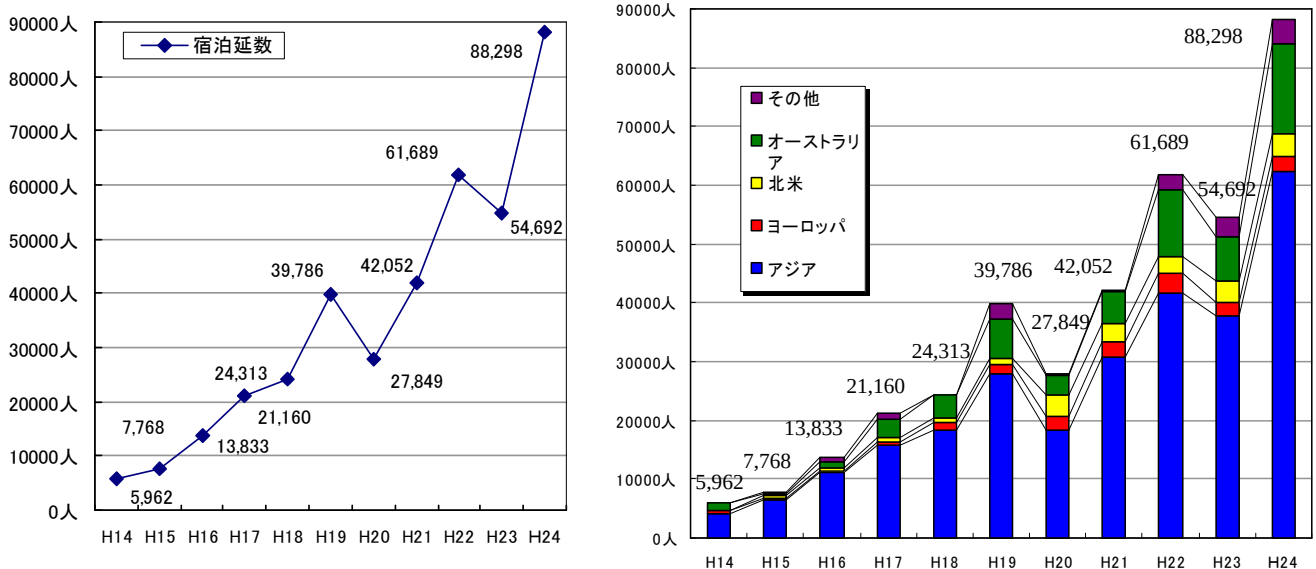
観光客内訳

総入込客数 1,411,400人



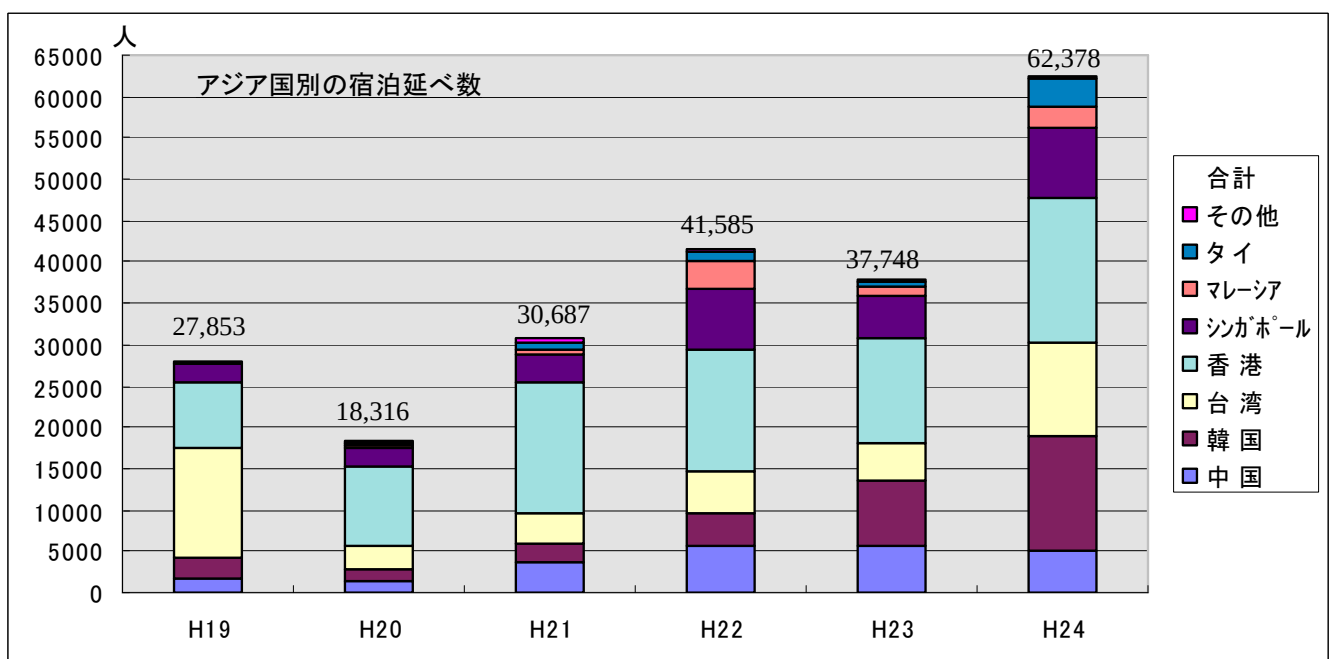
外国人宿泊客の状況（ニセコ町商工観光課調べ）

ニセコ町への外国人宿泊客数は、平成14年度から急激に増加、22年度には約10倍にも達し、国別の状況を見ると、特にアジア、オセアニアからの来訪者が増加している。20・23年度には経済状況や震災の影響により減少しているが、平成24年度は円安などの影響もあり、急激に増加した。今後も増加傾向が見込まれる。



アジア国別宿泊の状況（ニセコ町商工観光課調べ）

アジア圏内の国別の宿泊延べ数は、香港、韓国、中国、台湾を中心に急激に増加している。平成19年以降は、タイやマレーシアからの来訪者も増加している。いずれも、平成23年は震災の影響で減少しているが、今後もアジア諸国からの観光客の増加が見込まれる。



ニセコ町の社会基盤

水道施設・給水状況（ニセコ町上下水道課調べ）

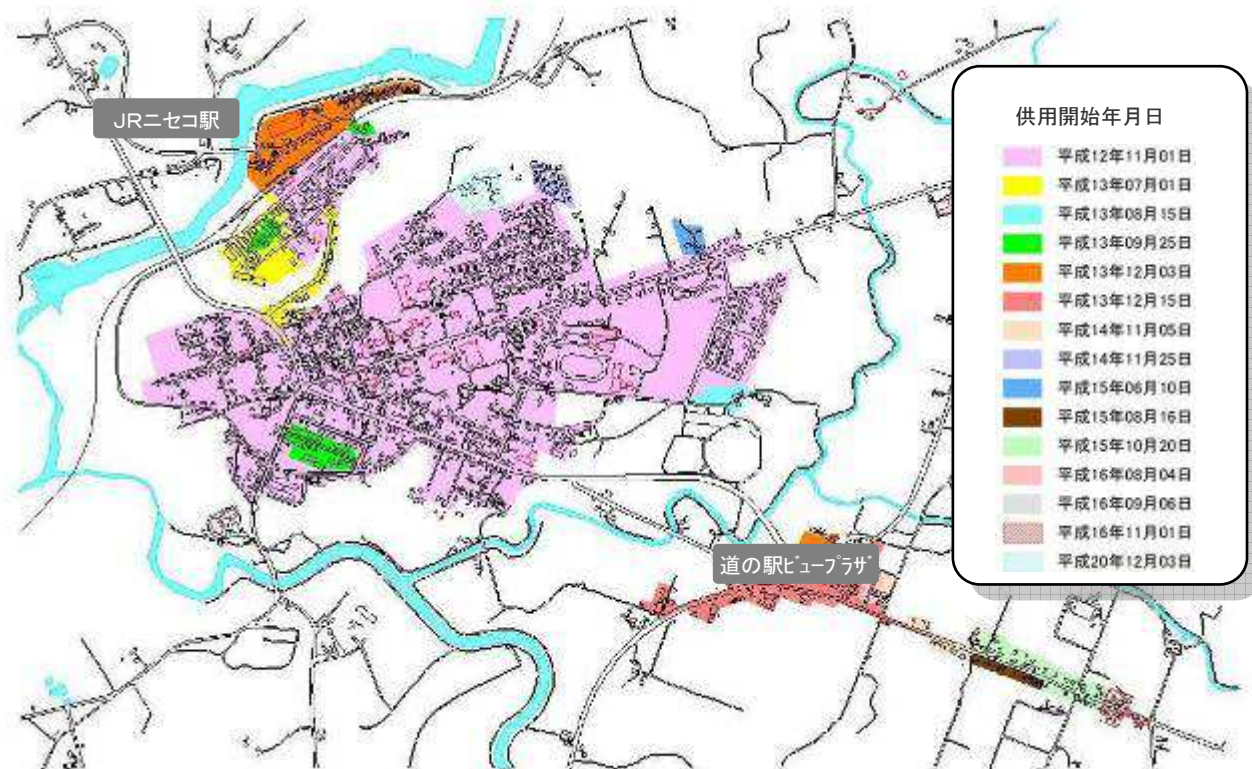
ニセコ町内には9つの水道施設があり、水道普及率は平成24年度末で90.9%となっている。特に宿泊施設が多く、定住人口の少ない地区では、給水人口あたりの給水量が多い。

区 分	平成24年度給水量 (立方㍎)	給水人口 (人)	1人当たり使用量 (立方㍎)	1人1日当たり 使用量(㍎)
市街地区簡易水道	354,554	2,759	128.5	352.1
曾我地区簡易水道	85,492	509	168.0	460.2
宮田地区簡易水道	22,343	208	107.4	294.3
近藤地区簡易水道	38,726	321	120.6	330.5
ニセコ地区簡易水道	132,389	230	575.6	1,577.0
桂地区飲用水供給施設	2,069	23	90.0	246.5
ニセコ温泉郷地区飲用水供給施設	2,300	2	1,150.0	3,150.7
いこいの村地区飲用水供給施設	22,145	5	4,429.0	12,134.2
福井地区簡易水道	19,969	281	71.1	194.7
合 計	679,987	4,338	156.8	429.5

公共下水道の普及状況（ニセコ町上下水道課調べ）

ニセコ町の公共下水道普及率は、平成23年度末で52.9%(人口ベース)となっており、2,498人がニセコ町の下水道を利用している。供用開始区域は下記の図面のとおりとなっており、計画区域全体で120ha、整備率は94.8%(113.8ha)となっている。

その他、西富地区では農業集落排水、市街地区以外では、合併浄化槽を19%の896人が利用している。



ニセコ町の環境

二酸化炭素排出量（ニセコ町企画環境課調べ）

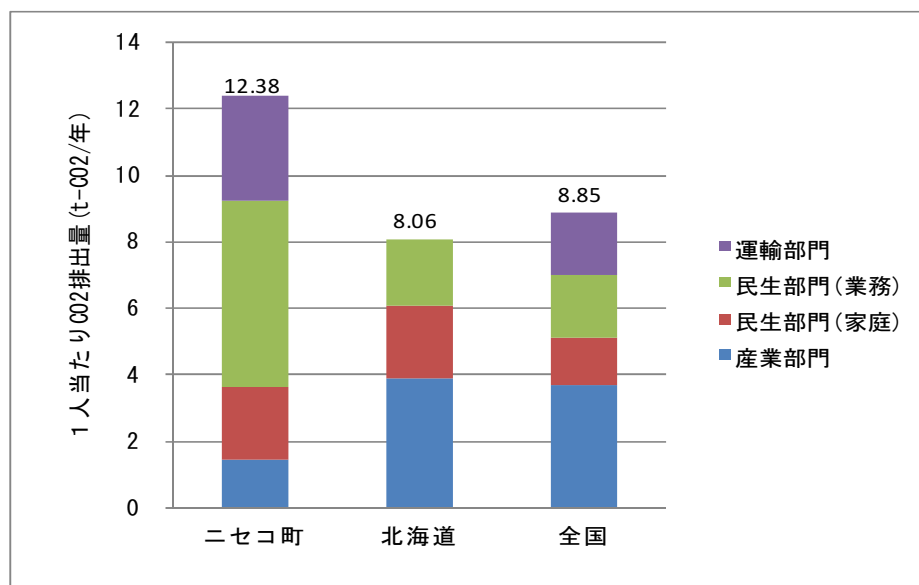
平成18年度(2007年)の二酸化炭素排出量は、平成2年度(1990年)比で全部門合計では11,740t、率にして25.5%増加している。部門別では民生部門(業務)と運輸部門(旅客乗用車)が大きく増加し、産業部門(製造業)と産業部門(建設業・鉱業)が大きく減少している。

	部門	1990年度	2007年度	増減	増減率(%)
産業部門	製造業	3,283	1,724	-1,559	-47.5%
	建設業・鉱業	759	467	-292	-38.5%
	農林水産業	6,333	4,524	-1,809	-28.6%
民生部門	家庭	8,280	10,140	1,860	22.5%
	業務	14,784	26,144	11,360	76.8%
運輸部門	旅客乗用車	4,654	7,319	2,665	57.3%
	貨物自動車	6,275	6,011	-264	-4.2%
	鉄道	1,678	1,457	-221	-13.2%
計		46,046	57,786	11,740	25.5%

一人当たりの二酸化炭素排出量（ニセコ町企画環境課調べ）

ニセコ町の平成18年度の1人当たりのCO₂排出量を全国平均と比較した場合、約1.4倍の排出量となる。産業部門は、全国平均の39%となっているが、民生部門(家庭、業務)、運輸部門は全国平均を上回っている。そこで、ニセコ町では地球温暖化対策実行計画を策定し、排出量の削減に取り組んでいる。

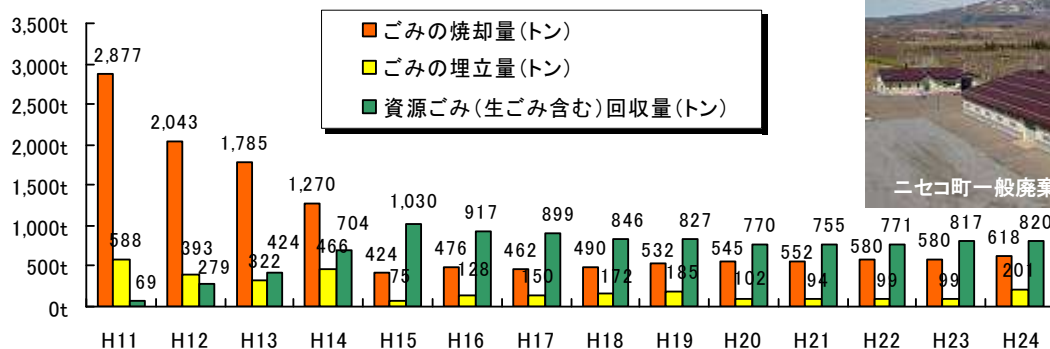
■平成18年の一人当たりのCO₂排出量



※「都道府県別エネルギー消費統計」の運輸部門は家計乗用車のみのため北海道の運輸部門は非算出

ごみ処理（ニセコ町町民生活課調べ）

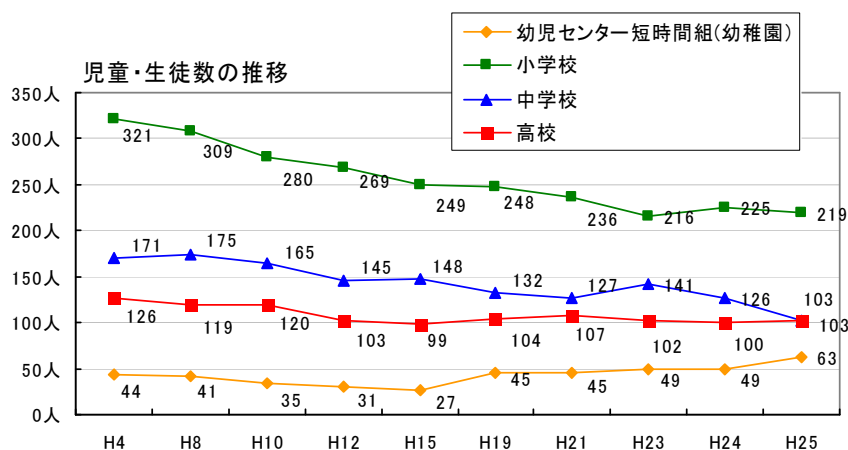
ニセコ町では、平成14年度からごみの有料収集及び、細分化した資源ごみの収集を行っている。平成15年度、ごみの焼却量は、前年度の約3分の1に減少、ごみの埋立量は、約4分の1に減少した。いずれも多少の増減はあるものの、現在までほぼ横ばいの数値を保っている。また、資源ごみの回収量は、平成15年を境に増加、平成24年度は資源ごみのリサイクル率53.03%（H23 51.87%）と向上している。



ニセコ町の教育

学校状況等（平成25年5月1日学校基本調査、ニセコ町調べ）

学 校 名	学級数	生徒・児童総数	生徒・児童数（男）	生徒・児童数（女）	教員数
ニセコ高等学校	3	103	44	59	16
ニセコ中学校	6	103	58	45	14
ニセコ小学校	10	201	108	93	18
近藤小学校	4	18	8	10	7
幼児センター（短時間組）	3	63	33	30	17
幼児センター（長時間組）	6	75	48	27	
北海道インターナショナルスクール・ニセコ校	2	9	6	3	2



幼児センターとは、幼稚園と保育所と、子育て支援センターの総合化施設である。

短時間組は従来の幼稚園、長時間組は保育所に通う幼児が対象となっている。

幼児センターへ通う幼児数（短時間組、長時間組）は、年々増加傾向にある。

ニセコ町の教育・文化施設

有島記念館



作家・有島武郎は、明治から大正にかけて、現在のニセコ町に広大な農場を所有していた。有島は、その小作人の困窮した生活を目の当たりにして、苦悩することになる。そして、「相互扶助」の精神に基づき土地共有を前提とした農場の無償解放を行った。また、有島文学が文壇で地位を確立した小説「カインの末裔」や「親子」は、この地が舞台となった。代表作品の一つである小説「生まれ出づる悩み」もこの地で執筆されたものである。ニセコ町は、有島武郎の文学や思想にとって重要な場所である。

昭和53年に建設された「有島記念館」では、ニセコ町ゆかりの作家・有島武郎の生涯と作品を紹介している。また、文学・芸術などの展覧会・普及事業の実施や有島武郎に関連した貴重な資料を後世に伝えるための活動を行っている。

有島記念館の周辺は、羊蹄山やニセコアンヌプリなどが一望でき、芝生が美しく整備された「有島記念公園」として整備され、町内外から憩いを求めて多くの人々が集っている。ここは町の文化・芸術拠点としての役割だけでなく、レクリエーション機能も兼ね備えた施設といえる。

	有島記念館	有島カルチャーセンター	有島アトリエ	有島記念公園
完成年月	昭和52.12	平成1.1	平成7.3	昭和62.11
面積	195.70㎡	426.78㎡	730.56㎡	19,338.98㎡

あそぶっく（ニセコ町学習交流センター）

図書館機能と情報公開に対応した公文書の保管・開示場所の機能を併設。運営は町民のみなさんによるNPO法人「あそぶっくの会」（会員数89名）が行う。住民組織が運営を行うことにより、柔軟かつ町民の目線に立った運営と、人件費などのコスト削減につながっている。同時に、社会教育の機能も担い、町民に期待・評価される存在となっている。

また、当施設は旧郵便局舎を改修・増築したものである。既存ストック施設を活用することで、建設費の大幅な削減が可能となった。

施設開設	平成15.4
床面積	551㎡
工事費	1億6,272万円
H24利用者数	39,282人
備考	ハードビル法適用



ニセコ町の体育施設

施設名	面積	概要
陸上競技場	8,997 ㎡	1周300m8コース 用具庫
水泳プール	325 ㎡	鉄骨屋根、ビニール張り、6コース（25m×14m） 子供用フロア付き、管理棟（セラミックブロック）
町民運動場	12,796 ㎡	野球用バックネット1張り、夜間照明6基（40kw）
テニスコート	1,600 ㎡	ラバテックシステムコート（2面）、フェンス付 水飲み場1ヶ所、夜間照明4基（16kw）
総合体育館	2,556 ㎡	アリーナ1,224㎡、格技室、研修室 トレーニング室、放送室、更衣室
運動公園		野球場1面（17,238㎡・両翼98m、センター120m） 管理棟、ゲートボールコート（2面） 多目的広場、パークゴルフ場（18ホール）駐車場、あずまや エントランス広場、ロックガーデン

ニセコ町の財政(平成23年度決算)

一般会計

歳入	決算額(千円)	構成比
町税	643,657	12.91%
地方譲与税	60,539	1.22%
利子割交付金	1,174	0.02%
配当割・株式譲渡所得等交付金	500	0.01%
地方消費税交付金	43,117	0.86%
ゴルフ場利用税交付金	2,684	0.05%
自動車取得税交付金	10,115	0.20%
地方特例交付金	9,891	0.20%
地方交付税	1,937,725	38.86%
交通安全対策特別交付税	1,002	0.02%
分担金及び負担金	23,344	0.47%
使用料及び手数料	140,113	2.81%
国庫支出金	620,673	12.45%
道支出金	164,141	3.29%
財産収入	28,781	0.58%
寄附金	3,450	0.07%
繰入金	100,087	2.01%
繰越金	127,242	2.55%
諸収入	176,636	3.54%
町債	891,545	17.88%
歳入合計	4,986,416	100.00%

歳出	決算額(千円)	構成比
(款別)		
議会費	60,659	1.25%
総務費	1,338,651	27.49%
民生費	549,654	11.29%
衛生費	349,513	7.18%
労働費	2,027	0.04%
農林水産業費	177,433	3.64%
商工費	172,253	3.54%
土木費	461,579	9.49%
消防費	234,075	4.81%
教育費	756,539	15.54%
災害復旧費	15,745	0.32%
公債費	750,964	15.42%
(主な性質別)		
人件費	1,730,138	35.52%
経常的経費	1,944,449	39.93%
投資的経費	1,194,505	24.53%
歳出合計	4,869,092	100.00%

特別会計

会計	歳出 決算額(千円)
国民健康保険事業	246,600
後期高齢者医療事業	42,370
簡易水道事業	177,280
公共下水道事業	174,980
農業集落排水事業	11,690
特別会計合計	652,920

主要な財政指数

標準財政規模	2,686,813千円
財政力指数	0.240
(連結)実質赤字比率	赤字なし
実質公債費比率	14.5%
将来負担比率	81.8%
資金不足比率	赤字なし
基金残高(全会計)	1,483百万円
地方債残高(全会計)	8,580百万円
ラスパイレス指数	98.1%

ニセコ町の予算、詳しい財政状況については、予算説明書「もっと知りたいことしの仕事」や町ホームページをご覧ください。

◆財政状況 <http://www.town.niseko.lg.jp/machitsukuri/zaisei/kessan.html>

※町外にお住まいの方は、(株)ニセコリゾート観光協会にてお買い求めいただけます。
(1冊1,000円となります。)

◆お申し込み先

(株)ニセコリゾート観光協会
〒048-1502 虻田郡ニセコ町字本通85番地
電話 0136-43-2501 FAX 0136-43-2050
E-Mail master@niseko-ta.jp
ホームページ <http://www.niseko-ta.jp/>



ニセコ町のあゆみ ～ニセコ年表～

年	月	出来事
1895 (明治28)		本町初の移住者、清川孫太、岩上判七ら西富に入地する。
1896 (明治29)	12	松岡善五郎、移民142人を率い入地する。(松岡農場)
1897 (明治30)	5	本町最初教育施設として近藤農場に簡易教育所できる。
	7	虻田村より分村し真狩村(現在の留寿都村)の区域に入る。
1899 (明治32)	7	有島武が婿山本直良の名義で90万坪の貸下をうける。(有島農場)
1900 (明治33)	4	吉川銀之丞、石狩幌向より小作人4戸と共に有島農場に入地する。この頃、松岡農場大半開墾に成功し、遠近の規範農場となる。
	9	元町より倶知安まで(13.7km)道路工事着手。
1901 (明治34)		昆布、倶知安間国道工事始まる。
	11	真狩村より分村独立、真狩村字真狩別太の狩太をとり狩太村と名付けられ戸長役場を元町に置く。(初代村長村上元治)
	12	狩太郵便局開設。(局長、深貝謙太郎) 元町と西富に駅通できる。
1902 (明治35)	1	村総代人に佐村義介、吉川銀之丞当選。
	4	元町に劇場狩太座できる。
	10	村医、山崎喜一郎着任。狩太第一尋常小学校(現近藤小学校)開校。生徒60人。尻別川(川北～市街)に渡船できる。人2銭。馬5銭。
1903 (明治36)	4	ルベシベ(宮田)に試作水田約4畝造田される。
	5	倶知安第四尋常小学校附属ニセコアン簡易教育所開設。(曾我小学校前身)
	7	狩太巡査出張所設置、大村栄太郎着任。
1904 (明治37)		松岡陸三、社地700坪を献じ神社奉斎する。(狩太神社の始め)
	5	狩太第二尋常小学校開校。(現宮田小学校)
	10	函樽鉄道開通。(現函館本線、函館～小樽間)
1905 (明治38)	3	狩太村巡査駐在所できる。
	4	戸長役場を新市街に移す。倶知安第四尋常小学校附属藤山特別教育所開設。(藤山小学校前身)
	5	狩太第三尋常小学校開校。(福井小学校)
	12	狩太第四小学校新市街に開校。(現農協所在地、今のニセコ小学校)
1906 (明治39)	4	2級町村制実施される。初代村長、西村数省(村議15名)
	11	ルベシベ(宮田)青年会できる。(会長、梶藤四郎、青年会の始め)
1907 (明治40)	5	富塚九平、製作所を始める。
	8	帝国製麻株式会社狩太工場操業開始。(大正13年工場閉鎖。)
	11	曾我青年会できる。昆布より西富、桂台を経て弁辺村会に至る道路開通。
1908 (明治41)	7	羊蹄山、5日間燃える。
	10	橋本某、名無川にて水車を始める。
1909 (明治42)	5	消防組できる。
1910 (明治43)	3	ニセコアン(ニセコ、曾我)一帯が倶知安村から狩太村に併合される。
	5	元町郵便局ができる。
1911 (明治44)		寿都銀行支店できる。(後の道銀支店)
1913 (大正2)		大凶作
1914 (大正3)	4	有島武郎、佐村農場を買い取り第二有島農場となる。
	7	旧市街で草競馬開催。
1915 (大正4)	4	狩太商工会創立。
	6	忠魂碑建立除幕式。
1917 (大正6)		守屋商店付近に劇場旭座できる。(昭和4年1月焼失) 近藤農場で鉄鉱採掘然別に移出する。(2年間操業)
1918 (大正7)		狩太、留寿都間に乗合馬車。
	3	市街地に電話開通する。
1920 (大正9)	3	狩太村青年団できる。(16支部)
1921 (大正10)	7	王子製紙工業株式会社尻別第一発電所完成。
1922 (大正11)	6	有島寄付の2町歩をグラウンドにする。(現ニセコ小学校グラウンド)
	7	有島武郎、小作人を集会所に集め、450町歩の「農場解放宣言」を行う。
	9	宮田ルベシベ処女会結成。(女子青年団活動の始め)

年	月	出来事
1923 (大正12)		この年から豊里、元町、有島で酪農がはじまる。
1924 (大正13)	8	有島農場解放記念碑建立。
1925 (大正14)	4	弁辺村(現豊浦町)から中昆布、柳の沢、桂の沢一帯を分割、狩太村に合併される。 狩太、留寿都間5人乗自動車はしる。北富士自動車会社の前身。(昭和18年道南バスに吸収)
1926 (大正15)	11	第二王子発電所完成。
1927 (昭和2)	2	私立王子第二小学校開校。(昭和16年公立王子小学校となる)
1928 (昭和3)	3	秩父宮殿下ニセコに御来遊。
	11	狩太信用購買販売利用組合創立。(昭和19年1月1日命により解散)
1929 (昭和4)	11	北海道製酪販売連合会狩太工場設立。(雪印乳業株式会社狩太工場の前身)
1931 (昭和6)		大凶作
	12	狩太村立病院開設。
1933 (昭和8)	8	村の紋章告示。
	9	狩太商業組合創立。(昭和34年1月27日解散)
1934 (昭和9)	1	狩太尋常高等小学校全焼する。
1936 (昭和11)	9	秩父宮殿下御来遊。
1937 (昭和12)	4	字地番改正。狩太、真狩間植民軌道運転開始。(昭和25年8月運行中止、28年廃止)
1939 (昭和14)	12	後志生産連狩太孵卵場できる。(昭和40年6月廃止)
1940 (昭和15)		ニセコで今井鉦山鉄鉦の採掘開始。(終戦とともに閉鎖)
	11	北海道電力株式会社比羅夫発電所創業。
1941 (昭和16)	9	株式会社後志澱粉工業所設立。
1943 (昭和18)		狩太、留寿都間道南バス運行される。
	11	農村電灯設備を初めて西山部落に施設する。
1944 (昭和19)	5	狩太製材工場できる。
	10	狩太土管製作所創業。
1946 (昭和21)	5	特別指導村から普通村に昇格する。
	12	農地改革始まる。
1947 (昭和22)	4	桂小学校廃校。
	5	学制改革により狩太、近藤、福井、桂の各中学校開校。
1948 (昭和23)	3	狩太農業協同組合設立認可。狩太農業共済組合設立。
	8	狩太村開拓農業協同組合設立。(昭和45年12月解散)
	10	狩太高等学校開校。(倶知安農業高等学校狩太分校として)
1949 (昭和24)	3	高松宮、三笠宮両殿下ニセコに御来遊。
1950 (昭和25)	4	後志信用金庫狩太支店できる。
	5	羊蹄山が国立公園に指定される。(支笏洞爺国立公園)
	8	「ニセコ」が道立公園に指定される。
	9	町制施行される。(初代町長、鈴木五十治) 開村50周年記念式典を併せて行う。
1951 (昭和26)	7	狩太、倶知安間道南バス運行。
	9	東大、駒井和愛博士一行、滝台、北栄のストーンサークルを発掘調査する。
1954 (昭和29)	7	拓銀狩太支店が道銀支店と名称変わる。(昭和43年11月閉鎖)
	8	天皇、皇后両陛下御来町。(奉迎場狩太小学校校庭、観光ホテルに御二泊)
1955 (昭和30)	2	狩太有線放送開始。
1956 (昭和31)	5	雪印乳業株式会社狩太工場落成。(昭和51年3月閉鎖)
1957 (昭和32)	5	有島農場管理事務所焼失する。
	7	狩太町体育協会できる。
1958 (昭和33)	11	ニセコ昆布温泉、ニセコ五色温泉郷国民保養温泉地に指定される。
1959 (昭和34)	7	狩太町公認グラウンド完成。(1周300m)
1960 (昭和35)	10	国保町立病院新築。(昭和41年3月廃止)
	11	市街地に簡易水道施設布設。狩太町史刊行。
1961 (昭和36)	3	王子小学校、狩太小学校に吸収統合。
1963 (昭和38)	7	ニセコ山系、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定される。

年	月	出来事
1964 (昭和39)	8	公民館完成。
	10	「狩太町」を「ニセコ町」に町名改称する。
1966 (昭和41)	7	町民体育館完成。
	12	太平洋クラブニセコモイワ国際スキー場開設。 有線放送電話施設開設、通話開始。
1967 (昭和42)	4	町内中学校統合。(近藤、福井、ニセコ各中学校)
	6	役場新庁舎完成。
	7	開基70周年記念式典挙行。
1968 (昭和43)	3	曾我小学校、ニセコ小学校に吸収統合。
	4	駅名、「狩太駅」を「ニセコ駅」に改名する。
	5	町章制定。
1969 (昭和44)	8	統合ニセコ中学校校舎完成。(3ヶ年計画)
1971 (昭和46)	3	過疎地域市町村に指定される。
1972 (昭和47)	2	ニセコ町振興公社設立。(昭和48年7月ニセコ町土地開発公社となる。)
	8	国民保養センター芙蓉荘完成。
	9	町営牧野造成完成。
	10	町立保育所完成。
	11	ニセコアンヌプリ国際スキー場開設。
1973 (昭和48)	11	「町民憲章」及び「ニセコ町の歌」制定。
1974 (昭和49)	9	ニセコ町民センター完成。
1976 (昭和51)	3	ニセコ、蘭越町学校組合解散。(桂中学校廃校)
	9	新消防庁舎完成。
1978 (昭和53)	2	新 有島記念館完成。
	8	ニセコ町、マキノ町姉妹都市提携を結ぶ。
	10	農村情報連絡施設同報無線開局。
1979 (昭和54)	4	町木「しらかば」と決まる。
1980 (昭和55)	2	ニセコ町総合体育館完成。
	11	全天候型テニスコート(2面)完成。
1981 (昭和56)	3	藤山小学校、ニセコ小学校に吸収統合。
	10	開基80周年記念式典、総合体育館落成式挙行。
	11	「ニセコいこいの村」オープン。
1982 (昭和57)	3	ニセコ町史発刊。ニセコ町新総合計画策定。
	12	東山スキー場、東山プリンスホテルオープン。ニセコ小学校新校舎完成。
1983 (昭和58)	6	土づくり10年計画開始。
1984 (昭和59)	2	ポテト共和国独立宣言。
	11	町立ニセコ幼稚園完成。
1985 (昭和60)	3	信州新町と姉妹都市提携を結ぶ。
	7	マキノ、ニセコ駅姉妹駅提携を結ぶ。
	11	ニセコ小学校開校80周年記念式典。
	12	特別養護老人ホーム「ニセコハイツ」完成。
1987 (昭和62)	11	有島記念公園・サフォーク牧場完成。
1988 (昭和63)	2	アンヌプリ地区地熱開発事業により温泉湧出。
	12	スキー列車「ニセコエクスプレス」運行開始。
1989 (平成元)	6	ニセコ町集約牧草地(字黒川)開設。有島カルチャーセンターオープン。
	10	町名改正25周年、町制施行40周年記念式典開催。
1990 (平成2)	1	平成元年度優良町村表彰受賞。
	3	福井小学校閉校。
	5	SL・C62ニセコ号、小樽ニセコ間運行。(平成7年運行中止)
	8	ニセコ町運動公園野球場オープン。
	8	「ニセコ赤坂奴」町無形民族文化財に指定される。



SLニセコ号

年	月	出来事
1991 (平成3)	10	ニセコ町開基90周年記念式典挙行。 町の花にラベンダー、鳥にアカゲラ制定される。
	12	ニセコ高校新校舎完成。ニセコヘリポート完成。
1992 (平成4)	12	オフトーク通信運用開始。近藤小学校新校舎完成。
1994 (平成6)	9	ニセコ町運動公園完成。
	11	ニセコ大橋完成。
	12	望羊団地(8棟72戸)完成。
1995 (平成7)	3	有島アートギャラリー完成。
	4	マイウェイアワロード事業着工
	8	市街地区下水道着工。
	10	中央地区地熱開発事業再調査により温泉湧出。
	12	曽我森林公園完成。
1996 (平成8)	1	曽我地区簡易水道完成。
	4	ニセコ綺羅街道街並み整備事業着工。
	12	のぞみ団地(2棟20戸)完成。
1997 (平成9)	3	ディサービスセンター在宅介護支援センター完成。
	3	ニセコ医院新築工事完成。
	5	道の駅「ニセコビュープラザ」オープン。
	8	市街地区下水道処理施設着工。
	11	地方自治法施行50周年記念自治大臣表彰受賞。
1998 (平成10)	2	綺羅団地(2棟20戸)完成。
	2	毎日新聞地方自治大賞奨励賞受賞。
1999 (平成11)	4	ニセコ町情報公開条例及びニセコ町個人情報保護条例施行
2000 (平成12)	2	本通A団地(単身者用、2棟12戸)完成。
	10	市街地区にて下水道が利用可能となる。
	12	本通A団地(1棟16戸)完成。
2001 (平成13)	4	ニセコ町まちづくり基本条例施行。
	6	ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」(きらのゆ)オープン。
	10	開基100周年記念式典。
2002 (平成14)	2	道道岩内洞爺線拡幅工事完了。
	4	町内循環バス「ふれあいシャトル」運行開始。
	6	ニセコ花フェスタ綺羅街道開催。
	9	近藤小学校開校100周年記念式典
	10	ゴミ有料化開始。
	12	一般廃棄物最終処分場完成。
	12	堆肥センター完成。
2003 (平成15)	4	学習交流センター「あそぶっく」オープン。
	9	倶知安町・ニセコ町合併協議会設置。
	11	宮田小学校開校100周年記念式典
2004 (平成16)	6	福井地区簡易水道利用開始。
	9	西富地区で下水道(農業集落排水施設)が利用可能となる。
	10	ニセコ町景観条例施行
	12	字曽我・ニセコ・東山地区で光ファイバーによる高速通信サービス開始。
2005 (平成17)	10	ニセコ小学校開校100周年記念式典。
	12	蘭越町・ニセコ町・真狩村・喜茂別町・倶知安町合併協議会解散
2006 (平成18)	2	ニセコ町出身の吉岡大輔選手が、トリノオリンピック・スキージャンプ競技に出場。
	3	宮田小学校閉校
2007 (平成19)	4	ニセコ町幼児センター「きらっと」オープン。
2008 (平成20)	5	町内循環バス「ふれあいシャトル」自転車車外積載運行開始(全国初)
2008 (平成20)	7	北海道洞爺湖サミット開催。
	10	字富士見・本通・中央通・元町・有島・近藤・里見・富川・豊里・羊蹄で光ファイバーによる高速通信サービス開始。



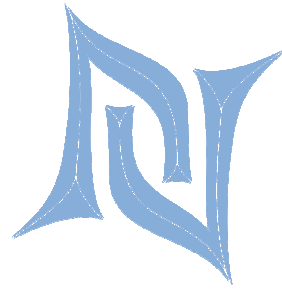
年	月	出来事
2009 (平成21)	3	アンヌプリ山麓1,206ha(字曾我・ニセコ・東山の一部)に準都市計画区域が指定される。
	8	新・学校給食センター運用開始。
2010 (平成22)	5	ニセコ町の新しいロゴマーク完成。
	6	ようてい地域消費生活相談窓口がニセコ町役場に設置される。
2011 (平成23)	2	字近藤・羊蹄・里見・宮田・富川・黒川・福井・西富・桂台で光ファイバーによる高速通信サービス開始。
	4	黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町による「ニセコ周辺地域産業活性化基本計画」が国の同意を得る。
	5	ニセコ町地下水保全条例及びニセコ町水道水源保護条例施行。
2012 (平成24)	1	北海道インターナショナルスクール・ニセコ校開校。
	3	FMラジオ局「ラジオニセコ」開局。
	4	ニセコ町民センターリニューアルオープン。
	10	ニセコ町デマンドバス「にこっとBUS」運行開始。
2013 (平成25)	1	北海道日本ハムファイターズの吉川光夫選手と植村祐介選手が、1年間ニセコ町の応援大使となる。
	5	北海道日本ハムファイターズとの3年間のパートナー協定締結。 町税、上下水道料金のコンビニ収納開始。



ふるさと眺望点(豊里のダチョウ牧場)



ふるさと眺望点(さくらんぼの木)



N I S E K O

H O K K A I D O J A P A N

《新しいNISEKOのロゴマーク》

「小さいながらも世界に通用する上質なリゾート地」をコンセプトに、誰もが読みやすいローマ字標記にされています。そして、ニセコの語源となっているアイヌの文様をモチーフにしたNマークは、連なるニセコの山々とそこにある「雪」「水」などを表現し、世界に通用する山間リゾートへ成長したいという想いが表現されています。

ニセコ町統計資料「数字で見るニセコ」2013年5月末版

発行／ニセコ町 企画環境課経営企画係

〒048-1595 北海道虻田郡ニセコ町字富士見47番地

TEL 0136-44-2121 FAX 0136-44-3500

公式ウェブサイト <http://www.town.niseko.lg.jp>